

新たな研究開発法人制度創設に関する有識者懇談会  
第一回 2013年9月24日

# 研究開発法人とイノベーション・ システム

政策研究大学院大学  
科学技術イノベーション政策プログラム  
ディレクター代理・准教授  
角南 篤

# 日本再興戦略： 経済成長とイノベーション

- キャッチアップからフロンティアへシステム改革
- 産業革命後の英国→ドイツ(第一次世界大戦前後)→米国→日本→米国？
- 国家が技術で他国に追いつき、リードするには  
→ ①大量生産システムの確立、②産学官連携(サイエンスの導入)によるノウハウの獲得
- イノベーション→生産性の向上→経済成長
- イノベーションにおけるサイエンスの貢献が高くなっている→公的研究機関、大学

# イノベーションと政府の役割

- 需要サイド→政府調達により開発支援  
(Technology Push と Demand Pull)
- 「Pre-competitive」のエリア→わかりにくい
- ハイリスク研究→非連続型・ゲームチェンジャーへのサポート
- 技術のポートフォリオの多様性の確保→市場や企業行動の限界を補う
- 現市場に存在しない「次世代のニーズ」の提供(デュアルユース→ロボット、航空宇宙、深海など極限状態)
- 技術情報(デュアルユース)の収集、管理→分析、戦略立案

# 古いタイプvs新しいタイプの ミッション型研究開発

- 古いタイプ(軍事、原子力、宇宙)
  - ミッションは、技術面での成果の数やタイプにより  
ディファインされ、経済的なフィージビリティは優先  
されない場合が多い。
- 新しいタイプ(環境・新エネルギー技術)
  - 過去には農業技術の普及(地域の技術センター)
  - ミッションは、**経済的なフィージビリティ**も視野に入  
れた問題解決型技術によって定義される。

# 企業の中央研究所時代の終焉と 期待される境界組織としての役割

